



はじめに

この章は、次の項で構成されています。

- [今回のリリースでの新機能](#) (1 ページ)
- [Cisco コンテンツ セキュリティ管理の概要](#) (6 ページ)

今回のリリースでの新機能

ここでは、AsyncOS for Cisco Content Security Management のこのリリースにおける新機能と拡張機能について説明します。

表 1: AsyncOS 14.0 の新機能

機能	説明
<p>拡張された [概要 (Overview)] および [受信メールサマリー (Incoming Mail Summary)] レポートページ</p>	<p>アプライアンスのレガシー Web インターフェイスの [受信メール (Incoming Mail)] レポートページで行われた機能拡張は次のとおりです。</p> <p>[着信メール (Incoming Mail)] レポートページ:</p> <p>[受信メールの詳細 (Incoming Mail Details)] セクションに [ドメインレピュテーションフィルタによる停止 (Stopped by Domain Reputation Filtering)] という新しい列が追加されました。</p> <p>[受信メールの詳細 (Incoming Mail Details)] セクションの [レピュテーションフィルタによる停止 (Stopped by Reputation Filtering)] 列の名前が [IPレピュテーションフィルタによる停止 (Stopped by IP Reputation Filtering)] に変更されました。</p> <p>詳細については、中央集中型の電子メールセキュリティ レポートの使用を参照してください。</p>
<p>新しい [システム正常性ステータス (System Health Status)] ダッシュボード</p>	<p>Web セキュリティアプライアンスの現在のステータスと構成を 1 ページで表示できるようになりました。Web セキュリティアプライアンスで、[モニタリング (Monitoring)] > [システムの正常性 (System Health)] を選択して、システムステータスをモニタする必要があります。</p> <p>詳細については、新しい Web インターフェイスの [システムの正常性 (System Health)] ダッシュボードを参照してください。</p>

機能	説明
証明書の使用	<p>アプライアンスは、保存された信頼できる認証局を使用してリモートドメインからの証明書を検証し、ドメインのクレデンシャルを確立します。次の信頼できる認証局を使用するようにセキュリティ管理アプライアンスを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムリスト • カスタムリスト <p>詳細については、一般的な管理タスクを参照してください。</p>
スマート ライセンス	<p>スマートライセンスを有効にして登録すると、クラウドサービスが有効になり、アプライアンスが自動的に登録されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco SecureX と Cisco Threat Response を有効または無効にするために、<code>generalconfig</code> コマンドの下にオプションが導入されました。 • コマンド <code>threstresponseconfig</code> は、「Cisco SecureX/Threat Response の機能を有効/無効にするには、一般的な <code>config</code> コマンドを入力してください (Enter general config command to Enable / Disable of Cisco SecureX / Threat Response feature)」という警告メッセージを表示します。 • スマートアカウント情報を取得するために、<code>smartaccountinfo</code> コマンドが導入されました。 • <code>CloudServices</code> を有効にすると Cisco SecureX は自動的に有効になり、<code>CloudServices</code> を無効にすると Cisco Securex は無効になります。 <p>詳細については、「Cisco SecureX または Cisco Threat Response との統合」を参照してください。</p>

機能	説明
コンテンツセキュリティゲートウェイでの Cisco SecureX または Threat Response の有効化	<p>コンテンツセキュリティゲートウェイで Cisco SecureX または Threat Response を有効にするには、一般的な設定を使用する必要があります。</p> <p>詳細については、「Cisco SecureX または Cisco Threat Response との統合」を参照してください。</p>
メールポリシーの詳細に関する新しいレポート	<p>新しいレポート [メールポリシーの詳細 (Mail Policy Details)] がアプライアンスの新しい Web インターフェイスに追加されています。このレポートを使用して、設定されたメールポリシーに一致するメッセージの数を表示します。</p> <p>詳細については、中央集中型の電子メールセキュリティ レポーティングの使用を参照してください。</p>
Cisco Threat Response 内のメッセージに対する修復アクションの実行	<p>Cisco Threat Response では、アプライアンスで処理されたメッセージに対して次の修復アクションを調査して適用できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 削除 (Delete) • 進む (Forward) • 転送と削除 (Forward and Delete) <p>詳細については、「Cisco SecureX または Cisco Threat Response との統合」を参照してください。</p>

機能	説明
国際化ドメイン名 (IDN) のサポート	<p>AsyncOS 14.0は、IDN ドメインを含む電子メールアドレスを持つメッセージを受信および配信できるようになりました。現在、電子メールゲートウェイは次の言語の IDN ドメインのみをサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • インドの地域言語：ヒンディー語、タミル語、テルグ語、カンナダ語、マラーティ語、パンジャブ語、マラヤラム語、ベンガル語、グジャラート語、ウルドゥー語、アッサム語、ネパール語、バングラ語、ボド語、ドグリ語、カシミール語、コンカニ語、マイティリ語、マニプリ語、オリヤ語、サンスクリット語、サンタル語、シンド語、トゥル語。 • ヨーロッパおよびアジアの言語：フランス語、ロシア語、日本語、ドイツ語、ウクライナ語、韓国語、スペイン語、イタリア語、中国語、オランダ語、タイ語、アラビア語、カザフ語。 <p>詳細については、はじめに (1 ページ) を参照してください。</p>
スパム通知	<p>[カスタムロゴの位置 (Custom Logo Position)] フィールドが新たに追加され、同じロゴをスパム通知メールの特定の位置に追加できるようになりました。</p>
ブランド変更後の製品と関連資料	<p>シスコは、製品と関連資料にブランドを「Cisco Content Security Management」から「Cisco Secure Email and Web Manager」に変更しました。</p>
パスフレーズ	<p>ログインパスフレーズを定義するには、Email and Web Manager に新しいパスフレーズルールを追加します。</p> <p>詳細については、一般的な管理タスク を参照してください。</p>

機能	説明
[FQDN]	X.509 証明書の場合、FQDN 検証ではその証明書のサブジェクト識別名の共通名フィールド (CN) と dNSName タイプ (SAN : dNSName) の subjectAltName 拡張が検証されます。 詳細については、 一般的な管理タスク を参照してください。

Cisco コンテンツ セキュリティ管理の概要

AsyncOS for Cisco Content Security Management には次の機能が統合されています。

- **外部スパム隔離**：エンドユーザ向けのスパム メッセージおよび疑わしいスパム メッセージを保持しており、エンドユーザおよび管理者は、スパムとフラグ付けされたメッセージをレビューしてから最終的な決定を下すことができます。
- **集約ポリシー (Centralized Policy)、ウイルス (Virus)、アウトブレイク隔離 (Outbreak Quarantines)**：これらの隔離および隔離内に隔離されたメッセージを複数の E メールセキュリティアプライアンスから管理するための単一のインターフェイスを提供します。隔離されたメッセージをファイアウォールの背後に保存できます。
- **中央集中型レポート (Centralized reporting)**：複数の E メールおよび Web セキュリティアプライアンスからの集約データに関するレポートを実行します。個別アプライアンスで使用できる同じレポート機能を、セキュリティ管理アプライアンスでも使用できます。
- **中央集中型トラッキング (Centralized tracking)**：単一のインターフェイスを使用して、メールメッセージを追跡すること、および複数の E メールおよび Web セキュリティアプライアンスにより処理された Web トランザクションを追跡することができます。
- **Web セキュリティアプライアンスの中央集中型構成管理 (Centralized Configuration Management for Web Security appliances)**：簡易性および一貫性のため、複数の Web セキュリティアプライアンスを対象にポリシー定義とポリシー導入を管理します。



(注) 中央集中型の電子メール管理、または E メールセキュリティアプライアンスの「クラスタリング」にセキュリティ管理アプライアンスは含まれません。

- **中央集中型アップグレード管理 (Centralized Upgrade Management)**：単一のセキュリティ管理アプライアンス (SMA) を使用して、複数の Web セキュリティアプライアンス (WSA) を同時にアップグレードできます。

- **データのバックアップ (Backup of data)** : レポートリング データ、トラッキング データ、隔離されたメッセージ、安全な送信者とブロックされた送信者のリストなど、セキュリティ管理アプライアンスのデータをバックアップします。
- **国際化ドメイン名 (IDN) のサポート (Support for Internationalized Domain Name (IDN))** : AsyncOS 14.0は、IDN ドメインを含む電子メールアドレスを持つメッセージを受信および配信できるようになりました。現在、コンテンツ セキュリティ ゲートウェイは次の言語の IDN ドメインのみをサポートしています。
 - インドの地域言語 : ヒンディー語、タミル語、テルグ語、カンナダ語、マラーティ語、パンジャブ語、マラヤラム語、ベンガル語、グジャラート語、ウルドゥー語、アッサム語、ネパール語、バングラ語、ボド語、ドグリ語、カシミール語、コンカニ語、マイティリ語、マニプリ語、オリヤ語、サンスクリット語、サンタル語、シンド語、トゥル語。
 - ヨーロッパおよびアジアの言語 : フランス語、ロシア語、日本語、ドイツ語、ウクライナ語、韓国語、スペイン語、イタリア語、中国語、オランダ語、タイ語、アラビア語、カザフ語。

このリリースでは、コンテンツ セキュリティ ゲートウェイで IDN ドメインを使用して設定できる機能はほとんどありません。

- SMTP ルートの設定 : IDN ドメインの追加または編集、IDN ドメインを使用した SMTP ルートのエクスポートまたはインポート。
- レポートの設定 : IDN データ (ユーザ名、電子メールアドレス、ドメイン) をレポートに表示します。
- メッセージトラッキングの設定 : メッセージトラッキングに IDN データ (ユーザ名、電子メールアドレス、およびドメイン) を表示します。
- ポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク隔離の設定 : アンチウイルスエンジンによって、マルウェアを送信している可能性があるとして判定された IDN ドメインを含むメッセージ、アウトブレイクフィルタによってスパムまたはマルウェアの可能性があると判定された IDN ドメインを含むメッセージ、メッセージフィルタ、コンテンツフィルタ、および DLP メッセージアクションによって捕捉された IDN ドメインを含むメッセージを表示します。
- スпам隔離の設定 : スпамまたは疑わしいスパムとして検出された IDN ドメインを含むメッセージを表示し、IDN ドメインの電子メールアドレスをセーフリストおよびブロックリストカテゴリに追加します。

1 台のセキュリティ管理アプライアンスからのセキュリティ操作を調整することも、複数のアプライアンス間に負荷を分散させることもできます。

